

ブログ <http://tomo-gongura.cocolog-nifty.com/blog/>

<名古屋 阪野 智夫>

総選挙V

だから考えたい 気候変動のこと 尾形慶子さんに聞きました

10月14日午後、衆議院は解散しました。

与野党激突、政権交代はなるか。この国の行方、子どもたちの未来、今日の暮らし明日の暮らし、政治の公平公正を問い、「新型コロナ」感染の終息、そして瀕死の「宇宙船地球号」を放っておいていいのでしょうか。

選挙、だから考えたい。知ってほしい、気候変動・地球温暖化のこと、なぜこうなってしまったか。地球的に考え、小さなことでもいいから地域で行動を。



- 1、今年のノーベル物理学賞で真鍋叔郎氏ら3人が受賞しましたが、受賞理由に「地球温暖化の将来予測の基礎を築く」とあり、「気候危機への警鐘」の声もあると伝えられています。尾形さんはこの受賞とその理由に関してどう受けとめられましたか。

(尾形) この時期に気候モデルの父をノーベル賞に選んだ、ノーベル委員会の意図を明確に感じます。日本は、温室効果ガス排出世界5位(*注)なのに気候対策への熱意が低いです。しかし、真鍋博士の受賞によって大きく潮目が変わるでしょう。日本の知識人や政治家の中に、いまだに温暖化懐疑論や「IPCCは資本家の回し者」論がありますが、日本の誇るべきノーベル賞受賞者の偉業を否定する訳にはいきませんから。

真鍋博士は、1967年にそれまでにない計算モデルを使って、CO₂が2倍になると地上の気温は2.3℃上がると、地球温暖化を予告しました。1988年、NASA研究者ハンセン氏が、米上院公聴会で地球温暖化への国際社会の関心を引きました。それを契機に、同年、IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)が設立されました。真鍋博士自身も公聴会で証言し、1990年のIPCC第1次報告書には執筆者として参加しました。IPCCの報告を元に、1992年、気候変動枠組み条約が採択され、世界が温暖化対策に取り組むことになりました。

真鍋博士は、50年後100年後、「地球の救世主」と称されるでしょう。ただしそれは、今、私たちが地球を救う行動を起こし、本当に地球が救われた場合の話です。

(*注) 温室効果ガス排出順位 <https://www.jccca.org/download/13330>

- 2、最近「気候正義」「気候責任」「気候危機」という言葉を聞くようになりました。これについて短く説明するとどういうことになりますか。

(尾形) 「気候危機」とは、気候変動によって地球が危機に陥ることです。すでに皆さんは気候危機を感じつつあると思いますが、これは序の口です。地球の平均気温がたった1.2℃上がっただけで、今年も世界ではひどい森林火災・干ばつ・豪雨・浸水が起り、日本でも線状降水帯による豪雨・土砂崩れなど被害が起きています。このまあいくと気温は3℃上昇します。人類の大半を死亡させるような危機が訪れます。気温上昇を2℃に抑えてもダメです。人類を死滅から救うティッピングポイント(転換点)は1.5℃です。

「気候責任」とは、このような気候危機になったのは誰の責任かということです。それは、先進国・富裕層・大人世代です。世界の裕福な10%の人口が地球上のCO₂の半分を排出しています。(*注) アメリカ人は1年間に1人当たり15.1トンを、日本人は8.5トンを排出しますが、アフリカなど途上国の人たちは0.98トンしか出しません。「炭素予算」という言葉があります。気温上昇1.5℃に抑えるために、人類はあとどれだけの量を排出できるかです。

先進国は、炭素予算を途上国に残しておかなければなりません。そして、彼らがCO2を排出抑制しながらも、国を発展できるよう技術的・資金的援助を行う責任があります。（*注）Extreme Carbon Inequality 2015：
https://www-cdn.oxfam.org/s3fs-public/file_attachments/mb-extreme-carbon-inequality-021215-en.pdf

「気候正義」とは、気候危機の張本人が責任を取り、気候危機の犠牲になる人・地球環境を救わなければならないということです。資本主義、新自由主義の原理では、安く買い高く売って利益を得ることが善です。資金力・権力のある者が、それを使ってますます金と力を増やし、貧しい者・弱い者との格差が広がります。このシステム（制度）が気候危機を深刻にしました。お金では測れない自然環境・共有地・助け合い・コミュニティの繋がりが、文化と芸術などを、やすやすと壊しています。これを根本的にくつがえそう（Uproot the system!）と、世界の若者が叫んで立ち上がりました。気候正義を実現するには、制度を根っこから変える必要があります。

3、「気候変動・地球温暖化」の課題は、市民運動の根幹ともいえる「地球的に考え、地域で行動を起こす」に合致します。世界各国の動きの解説は膨大になりますので割愛しますが、地域的な、特にこの愛知、名古屋における活動例えば、温暖化対策の強化を求める全国的な若者の運動「Fridays For Future Japan（フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン）」があります。こうした若者たちの活動と大人たちの態度をどのように考えておられますか。

（尾形）若い世代も大人たちも、日本では民主教育が不十分なので、「みんな仲よく」「和を乱さない」傾向にあり、自分の意見を表明することが苦手です。気候問題についても、外国の事情に触れた若者から Fridays For Future の運動が始まりました。名古屋でも海外留学経験者や在住外国人が Fridays For Future Nagoya を始めました。また、ドイツ在住の環境活動家・谷口たかひささんが日本中でお話を催し、「地球を守ろう」と訴える若者たちがその輪をひろげ、気候マーチ、ゴミ拾いイベント、生物多様性を守る「動物福祉」の活動をしています。

若者たちは、気候対策を進めない大人たちに怒っていますが、一方で協力し合おうとも考えており、立派だと思います。たとえば、電気を多消費する自動販売機を減らしたい Fridays For Future Japan の若者が、自販機産業ユニオンと共同でストライキを行いました。「過重労働で自分の時間も持てない、地球の未来を考えることもできない」自販機労働者の現状を憂いてのことです。また、フランスで炭素税増税に反対する「黄色いベスト」運動の参加者を Fridays For Future の若者が粘り強く説得したという話があります。

4、10月31日に、衆議院議員選挙があります。各党はそれぞれ「気候変動・地球温暖化」「カーボンニュートラル」などの政策を織り込んでいますが、新型コロナ感染対策、経済再生などが優先課題のために陰になりがちです。またどこまで本気なのか気になります。尾形さんは、この選挙で期待するもの、また各党の政策についてどう評価しておられますか。

（尾形）気候対策は重点政策ではないですが、やっと取り上げられ始めました。立憲民主党の自然エネルギースペシャリスト山崎誠議員が、実現可能な数字を積み上げたカーボンニュートラルへの道を示しました。日本共産党は、NPOなどの提言をよく研究した「戦略」を発表しました。社民党も、福島瑞穂党首が環境問題を声にし、政策集に気候対策を取り上げています。ただ、愛知県連合の関心は薄い模様です。

心配なのは、自民・公明と維新の会が、小型原発など気候対策を言い訳に原発を推進しようとしていること、化石燃料を残そうと当てにならないCCS技術などを夢見たり、あるいは化石燃料由来の水素・アンモニアを混ぜて石炭火力を延命しようとしていることです。また、再生可能エネルギーにしても、森林を破壊するメガソーラー・メガ風力のプロジェクトが進んでおり、生態系を壊し土石流の原因を作る恐れがあります。気候対策を新たな金儲けのタネにするあまり、環境破壊につながっては本末転倒です。

また、真剣に気候対策を考えるなら、炭素税の大幅強化と「公正な移行」を避けては通れません。炭素税によって「二酸化炭素を出すと高くつく」ようにしないと排出削減はできません。しかし、炭素税は、消費税と同じように貧しい人にも負担がかかります。炭素税を財源に社会保障を充実しないといけません。

もうひとつは「公正な移行」です。自動車業界はガソリン車から電気自動車に転換しなければなりません。鉄鋼業・セメント業のように燃料多消費産業は縮小しなければなりません。それらの労働者が大きな痛みを押し付けられないように産業転換する、「公正な移行」を労働界と議論していく必要があります。

5、最後に「気候変動・地球温暖化」について、改めて訴えたいことは何でしょうか。

（尾形）世界の若者の間で「気候不安症」が広がっています。1万人の調査によると、75%が「未来は怖い」と答え、45%は日常生活に影響を及ぼすほど不安を持っており、39%は将来子供を持つことをためらっています。私の知り合いの30代の女性は、「家庭を作る幸せはあきらめた。でも上の世代の人たちが公害や原発や平和の運動をしてくれたおかげで、自分たちは気候問題に集中できる。感謝している。」と言います。私は泣けて、泣けてたまりません。私たち世代は、なんてことをしてしまったのだろう。子どもや孫や未来の世代に、幸せに寿命を全うできる地球を残せるのは、私たちが最初で最後の世代です。頑張りましょう。

ありがとうございました。

私たちの日常生活では、空気も水もきれいで豊富にあって、家はオール電化が夢とばかりに、電気は“お金さえ払えばいくらでも”と……。最近の自然災害の猛威続発に誰もが“何かおかしい”と感じ、新型コロナの感染も人間が地球に悪さをしたことのしっぺ返しかなとも。

地球がいつまでも「青く美しい星」であり続ける、そのために“私たちが最初で最後の世代”は重い言葉ですが、それを背に負ってまだまだ続く道を共に歩んでいきましょう。（10月13日記）

尾形慶子（おがたけいこ）

三重県四日市生まれ64歳。福島原発事故を機に、緑の党グリーンズジャパンに参加。現在は共同代表、国際部長。今年4月、「環境」と「女性」をテーマに名古屋市長選挙に立候補しようとした。

新たなうねりに寄り添う



クロ現+ 2019年11月11日



温室効果ガス 新たな削減目標めぐり大学生などが国会で意見意見を述べる中村涼夏さん <NHK 2021年4月23日>

気候危機、若者のうねり 大人に未来を託せない

<毎日新聞 2021/10/10>

国会議員が居並ぶ中、りんとした声が国会議事堂（東京・永田町）の脇に建つ衆院分館の部屋に響いた。

「私は皆さん方、大人に『あなたたちの未来と命はない』と宣告されたように感じました。絶望しました。気候危

機から国民の命を守るという責任を放棄したように思えます」「気候危機は、既に日本を襲っています」。地球温暖化対策推進法をどう改正すべきかを議論していた4月23日の衆院環境委員会で、鹿児島大2年の中村涼夏（すずか）さん（20）は15分間にわたり危機感を訴えた。

中村さんは、温暖化対策の強化を求める全国的な若者の運動「Fridays For Future Japan（フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン）」の中心メンバーだ。

運動の実績を買われ、国の環境やエネルギー分野の会合に参加する第一人者の専門家らとともに、委員会に招かれた。

その前日、菅義偉首相（当時）を本部長とする政府の地球温暖化対策推進本部は「二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を、2030年度までに13年度より46%削減する」という新しい目標を決めたばかりだった。これまでの「26%削減」から大幅な引き上げ。それでも中村さんは不十分だと感じ、思いの丈を語った。

「フライデーズ・フォー・フューチャー（未来のための金曜日）」元々は、スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん（18）が15歳の時に始めたひとりぼっちの運動だ。毎週金曜日、温暖化の対策が徹底されないことに抗議するため、学校を休みスウェーデンの国会前で座り込みを続けるストライキをした。

「大人は子どもたちを愛していると言いながら、その目の前で子どもたちの未来を奪っている」。こうした訴えが、若者の心に響いた。各国の若者らによる路上デモや、ネット交流サービス（SNS）を通じた抗議運動につながり「フライデーズ・フォー・フューチャー」は1年足らずで世界中に広がった。うねりは日本の若者にも波及した。

「フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン」は路上やオンライン上での運動だけでなく、中村さんらメンバーが小泉進次郎環境相（当時）と3度も意見交換するなど、政治の場でも存在感を発揮し始めている。

なぜ中村さんは、環境問題の世界に踏み出したのか。きっかけは、幼い時に見たふるさとの原風景だという。

グレタさん叫び、届く

エメラルドグリーンの海面をのぞくと透き通っていて、海底の白い砂だけでなく、泳いでいる魚の姿も見える。中村さんが幼少期、保育園の帰りに母親と毎日のように眺めた鹿児島県・種子島の海だ。これが当たり前の光景だった。

5歳の時、父親の転勤により名古屋市へ。名古屋港の海を見た時、衝撃を受けた。工業廃水のせいか黒っぽく汚れていただけでなく、臭いが鼻を突いた。「私が知っている海ではない」。幼心に、人の手で自然環境を変えてしまう恐ろしさを感じた。それが忘れられず、高校2年だった時、生物の多様な生態系の保護など社会問題に取り組むグループに加わった。

グレタさんをSNSで知ったのは19年、高校3年の夏だった。「私たちの未来が気候変動によって脅かされている」。同世代の叫びに、中村さんの意識が変わった。「最初は大げさだなと思ったけど、調べていくうちに深刻さに気づいた。人ごとではない。温暖化の影響が多様な生態系を壊す恐れがあることも分かった。

グレタさんの訴えが、友達として「大変なことになっているよ」と教えてくれた気がして、心が定まった。「今やらないと間に合わない。私も声を上げよう」

その頃、市内では「フライデーズ・フォー・フューチャー・名古屋」という運動が始まろうとしていた。それを中村さんは生態系の保護活動のグループから教えてもらい、デモに向けた最初の企画会議に出席した。だが、その後は順風満帆にいかなかった。実際にデモに参加してみると、日によって若者が数人しかいなかったり、自分一人だけだったりした。

この年の秋、東京で開かれた温暖化の勉強会に出かけ、都内や京都で活動している若者に会った。同世代が大規模な運動をしていると聞き「名古屋で一人でやっても意味がないのかな」と不安が芽生えた。

受験勉強の追い込みの時期。東京行きを秘密にしていた父親にすぐにはばれてしまい「勉強がおろそかになる」と口を利いてもらえなくなる。母親からも「社会的に良いことでも、家族として受け入れられない」と言われた。

「親でさえ理解してくれない。周りのみんなも同じように思っているのかも」。ふさぎ込んで2週間ほど部屋に閉じこもった。食事は喉を通らない。孤独に陥りかけた時、転機が訪れた。救ってくれたのも東京で巡り合った若者だった。

通話は2時間を超えるほど盛り上がった。2019年11月のある晩、当時高校3年で名古屋市に暮らしていた中村涼夏（すずか）さん（20）は、東京の勉強会で出会った同学年の酒井功雄（いさお）さん（20）と電話で話し込んだ。

2 人とも翌日にテストを控えていたが、時間は全く気にならなかった。

「フライデーズ・フォー・フューチャー・那須」「フライデーズ・フォー・フューチャー・京都」。この年、各地で温暖化対策を訴える運動が、同じような名称ながらバラバラに起きていた。先駆けは「東京」。2 月、環境 NGO でインターンをしていた学生ら 15 人が国会前でデモ活動したが、取材に訪れた報道関係者の方が多かった。酒井さんも「東京」のメンバーだ。

電話では、これからの運動をどうするのか話題になった。酒井さんは日ごろから「みんなでやれば変わるかも」と考えていた。中村さんも各地の運動を全国的につなげ、地方の声を国政に届けたかった。「各地のデモをムーブメントにしないといけないよね」。酒井さんと意気投合した。

みんなでやれば変わる

SNS で団結

「声を高めて社会を変えていけるような運動にしたい。死に物狂いでやる」。意を決した中村さんはネット交流サービス（SNS）を使い、参加者同士が連絡を取り合えるようにした。京都や福岡などで活動する若者にも参加してもらい、5 人で各地を連携させた運動「フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン」を目指すことになった。

20 年 2 月の約 1 カ月は受験勉強に専念した。その間、酒井さんは自身が東京で開いた「学生気候危機サミット」の参加者に呼びかけるなどし、さらに 50 人ほどがメンバーに加わった。中村さんは鹿児島大への進学を決め、再び組織作りに力を注いだ。

全国に散らばるメンバーの活動場所は SNS 上だ。連日のようにオンライン会議で意見を交わし、シンポジウムで知り合った専門家を招いてオンライン勉強会を重ねたことで、政府の温暖化対策の不十分さを再認識した。

温暖化が進めば大気が蓄える水蒸気量が増えるので豪雨が起きやすくなり、洪水が増える。食糧供給にも大きな影響がある。メンバーは「対策は待ったなし。政府をすぐにでも動かすことが大切」と痛感した。

「フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン」として何をすべきか。話し合いの末、20 年 4 月の世界一斉デモに合わせ、国内でも初めてとなる統一的な運動をすることにした。

ところが、その矢先に新型コロナウイルスの感染が世界的に広がり始める。国内でも安倍晋三首相（当時）が 4 月 7 日、最初の緊急事態宣言を出し、街頭で活動ができなくなった。やむを得ず方針を変え、オンラインで「デジタル気候マーチ」をすることにした。

宣言発令から 2 週間余りが過ぎた 24 日の金曜日、中村さんらは午後 5 時になると、二酸化炭素など温室効果ガスの削減目標の引き上げを求めるメッセージを、ツイッターに投稿した。メッセージを記した写真には、検索されやすいよう「#気候も危機」というハッシュタグ（同じテーマの投稿を示す「#」印）を付けた。

一般の人にも同様の投稿を呼びかけると「#気候も危機」はツイッター上で関心の高い旬のキーワードになり、わずか 2 時間で投稿数は 6000 件超に上った。初めての全国的な運動に、中村さんは手応えをつかんだ。「問題意識をみんなで共有して『いろいろな地域とつながっている』と実感できて感動した。多くの人が注目してくれるなら、地方の声も都市部と同じように届けられる」

若者の声を反映させたくて「フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン」として集めた署名約 4 万筆を政府に提出すると、小泉進次郎環境相（当時）との面会や国会での発言が実現した。1 年前の中村さんなら考えられなかったことだ。両親も今は「すごいことをしていたんだね」と活動を認めてくれている。

環境 NGO「気候ネットワーク」の平田仁子（きみこ）理事も評価する。「若い人ほど危機感を強く持つのは当然だが、こうした声はこれまで顕在化していなかった。活動を組織化して発信することで、いろいろな人に気づきを与える。若者だけでなく、全ての人が危機感を持って行動すべき問題で、若い世代が活動するのは頼もしい」

ただ、中村さんはまだ運動に確信を持っていない。小泉氏は、記者会見で中村さんらと意見交換した理由について「カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量を森林による吸収などを差し引いて実質ゼロにする）時代を生きる

若者の声をしっかりと聞きたいと思った」と答えた。

その姿勢に中村さんは疑念を拭き切れない。「声を聞いてもらえる土台はできてきたけど、政治家や政府は本当に実行に移すのだろうか。『若者の声を聞いた』というパフォーマンスなんじゃないのかな」

活動の課題も見えてきた。新型コロナ禍の中、支えてくれるメンバーは現在 30 人ほど。入れ替わりも多く、悩みの一つだ。「オンラインだからこそ広くつながれたが、深い関係は難しい。本当は実際に会った時の何気ない雑談なども大事なのに」

それでも信念に揺るぎはない。「フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン」は愛知県などが新型コロナの緊急事態宣言下だった 9 月 24 日の金曜日、各地の運動と連携してオンラインで温暖化対策の強化を訴えた。政府には、再生可能エネルギーのさらなる普及など 9 項目の要求を掲げた。

中村さんは名古屋市内で、運動のテーマ「気候危機見て見ぬふりはもうできない」と書いた自作のプラカードを持ち、スマートフォンで「自撮り」をした写真を SNS に投稿してアピールした。

政治が動くまで訴える

1 人から世界へ

今回の運動も、欧州など 80 カ国以上で展開された抗議活動に連動したものだった。ドイツ・ベルリンではスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん（18）ら数万人がデモ行進した。グレタさんは「学校ストライキを始めた時、運動がこんなに大きくなるとは予想していなかった。私はただ『何かやらなきゃ』と思っただけ」と言う。

温暖化対策が選挙の争点になる欧州の熱気に比べ、日本では今月末に衆院選が控えているのに争点になる兆しが見えず、中村さんのいらだちは募る。

「温室効果ガスを多く出す石炭火力発電を廃止する議論が見えてこないのは大問題。将来、影響を受けるのは私たち若者なのに、問題の深刻さに気づいていないのではと思ってしまう。政治家に若い世代が少なくて、問題意識にギャップがある」

衆院選を前に動きの鈍い政治家や政府の姿に絶望しながらも、事の重大さに気づいてもらうためにも運動を続けていく。「声を上げるための場所をなくしたくない。気候危機に終わりはないから、そういった場をずっと提供しないと」

18 世紀の産業革命前より、世界の平均気温の上昇幅を 1・5 度に抑える——。目指すゴールまで猶予はないが、中村さんは未来への希望を捨てていない。

信田真由美（のぶた・まゆみ）（科学環境部）

2015 年入社。千葉支局を経て 19 年から現職。ノーベル賞などの取材を経て、9 月から環境省を担当している。

近藤昭一 選挙事務所の開設／出発式、他

愛知第 3 区＜昭和区、天白区、緑区＞

- ◇選 挙 10 月 19 日（火）告示 10 月 31 日（日）投開票
- ◇選挙事務所 天白区植田西 3-1207（現事務所）TEL：052-808-1181 FAX：052-800-2371
- ◇出 発 式 日時—10 月 19 日（火）10：00～ 場所—地下鉄・植田駅前（マスク着用）
- ◇選挙用葉書 近藤昭一事務所からお取り寄せ。早めの返送を求めています。（期日前投票を考慮して）
- ◇応援団募集 チラシ配り、電話かけなど。詳細は事務所まで問合せ。

書きのこし

●10 月 14 日午後 1 時過ぎ、衆議院が解散した。それを見届けてこの欄を書いている●今号は総選挙シリーズの第 5 弾として尾形慶子さんへの紙上インタビューを試みた。「気候変動・地球温暖化」の課題は、選挙の争点になりにくいから敢えて取り上げた、ということもあるが、小なりとも情報発信の位置にいて、自由通信であれば「私自身の関心事」に心が動くのである●2013 年の参院選挙で尾形さんは緑の党・比例の候補者であった。私は事務所に詰め、街宣活動のルートなどを担当した。それ以来「緑の党のサポーター」である。緑の党の環境問題、ジェンダー、若者などに関する政策、活動に共感する一方、「政治性」に足りなさを感じていた●政権交代をめざすなら当面は、立憲民主党が力を蓄え、発揮し軸となる。だがその体制は十分といえない。だから私の中では、その足らざる一角に「緑の党」が加わり、政権を補強すると同時、「未来志向」の旗振りをしてもらいたいと思うのである。空想に過ぎないかもしれないが、それもいいではないか。（阪野 記）